

洪水

し也。トカブ乳の事なり、餘說あれ共總て脛記勝説に距れば記さず、是東部第一の川にして、此國の母川とし、石狩を父川とす、去箱館百五十餘里、今從_ニホロイヅミ境_{ビタマ}迄トカチト云、沿海二十三里、山に入事五十餘り、捨一ヶ場所に_{クスリ}アバシリトコロ、石狩サルニイカツミ、隣接し、源は石狩に向背し、此度山越せし地を口分水嶺とし、土人も時として越たる者有と雖も、未だ和人は是を試し者天開地闢の後一人有之を聞かず、然るに此度御開拓の命有、某も此山路を試ん事を、余に函館府より命せられ、依て余冰雪の上石狩より入、十勝に出て、日誌五卷を著。○下

〔伊呂波字類抄_古〕洪水

〔蓮歩色葉集_古〕洪水

〔書言字考節用集一乾坤〕洪水コウズノ_{左傳、積雨之所成也。}

〔倭訓_古〕_{中編八}こうすい 洪水と書り、又孟子に洚水とも見ゆ。

〔長谷寺縁起〕傳聞近江國高島郡三尾前山有深谷號白蓮花谷、彼谷有大臥木、猶如有心、長十餘丈楠也。○中昔八幡宮應神天皇五代之孫人王廿七代繼體天皇卽位十一年丁酉歲雷電霹靂風雨大命而有洪水、此木自彼谷流出志賀郡大津浦漂歷六十九年。○下

〔日本書紀_{欽明}〕二十八年、郡國大水飢、

〔日本書紀_{推古}〕二十九年五月天皇居于耳梨行宮、是時大雨、河水漂蕩滿于宮庭、

〔古事談_{三僧行}〕神龜元年、行基菩薩造山崎橋造了後、菩薩於橋上大設法會、而俄洪水出來、橋流了、人多死、

〔日本後紀_{平城}〕大同元年八月、是月霖雨不止、洪流汎濫、天下諸國多被其害、
〔日本紀略_{淳和}〕天長九年八月己卯、大雨大風、河內接津國洪水汎溢堤防決壞、九月丙申、賑給接津國逢洪水百姓、